

寒天製造の老舗創業の地住民と移住者つなぐ場目指して

富士見の古民家 地域の「縁側」に

富士見町富士見の古民家を生かした複合型施設「とちのきえんがわ」が7日、オープンする。築200年以上とみられる古民家を1年以上かけて改修し、カフェやシェアオフィスなどの多目的スペースとして開放する予定。古民家が旧甲州街道沿いにあることから、施設を「人と地域をつなぐ場所」にし、地域住民と移住者が交流できる環境を目指している。

多目的スペース 7日開所



天井の梁(上)が特徴の古民家。左下はフリーラウンジ、右奥は会議スペースとして貸し出す予定

古民家は寒天製造の老舗、小笠原商店の経営者の元住居で、本社所在地。20年ほど前から伊那市に拠点を移しており、古民家は使われていなかった。岐阜県羽島市から八



「とちのきえんがわ」を運営する(左から)山本さん、長崎徳行さん、裕美さん

ヶ岳山麓に魅了され、2021年10月に移住した長崎徳行さん(47)、裕美さん(48)夫妻が、イベントスペースを作りたいと模索していたところ知人から紹介された。

人口約100人のとちの木区にある古民家は、木造平屋で165平方メートルほど。22年3月に初めて入った徳行さんは「建物の広さと梁の存在感に圧倒され、何か面白いことができそうと思った」。改装には富士見町出身で飲食店経営などを手がけてきた山本佑太さん(36)も加わり、床の張り替えや壁の塗り直しなど改修を進めてきた。



改修は小笠原商店も協力した。同社専務の小笠原義雄さん(52)は「創業の地が地域活性化のコミュニティとなりうれしい」と期待し、小笠原商店の寒天なども並べる予定という。裕美さんは「移住希望者と地元住民をつなげる場になりたい」とし、山本さんは「農村体験も企画してハケ岳山麓を盛り上げる」と意気込んでいる。

平方メートルが使用できる。キッチンには、熟成させた「酵素玄米」をはじめ、和食やコーヒーなどを提供する4事業者が交代で入る。その他、フリーラウンジや会議スペースとしても有料で貸し出し、残る部屋や古民家に併設されている蔵なども徐々に改修して活用

していく方針という。営業は午前10時〜午後10時で年末年始を除き無休。予約などの問い合わせはQRコードからインスタグラムへ。



問い合わせ先の
インスタグラム

八十二銀と長野銀 フードドライブ



フードドライブへの支援を呼びかける八十二銀行と長野銀行の従業員

諏訪地域で初共同企画 3日から

地銀1行時代

諏訪地域にある八十二銀行(長野市)と長野銀行(松本

市)の各店舗は3日、余った食料品を募る「フードドライブ」を全14店舗で始める。6月の両行の経営統合を受けて行われる諏訪地域で初めての

富士見の配送業者 移動販売開始へ

言

ゼロカーボン宣言を行った下諏訪町の町制130周年記念式典